

2007 年 6 月 21 日

早稲田大学・サステナビリティ研究会のご案内

1. 研究会の趣旨・目的

本研究会は、早稲田大学における学際的環境研究の促進を目的とし、社会科学系の環境問題の研究者を中心とした、緩やかで横断的な研究者ネットワークです。専門分野が社会科学系でなくとも、環境問題の社会的側面に関心のある研究者の参加は大歓迎です。また、教員・研究者だけでなく、職員、学生、学外の方の参加も大歓迎です。

当面、2 ヶ月に 1 回程度、研究会を開催し、会員相互の研究交流と情報交換を図りたいと考えています。研究会自体は緩やかなネットワークとしますが、議論の中で、機が熟せば、研究者の自発性に基づき、科研などのプロジェクト研究やグローバル COE などのプログラム研究の形成のための触媒となればよいと考えています。

早稲田大学では社会科学系だけでも多くの環境研究者がいるにもかかわらず、従来、その相互交流は活発とは言えなかったように思います。国立大学では、かつて「学部自治あって、大学自治なし」と言われるほど学部間の壁が厚かったと言われていたのですが、法人化後は、学部・大学院（一般に部局と呼ぶ、早稲田の箇所と同義）間の壁は低く・薄くなり、環境科学・生命科学・情報科学などの学際的・複合的な新領域の学問分野の開拓が急速に進展しています（例えば、東大主導のスーパーCOE であるサステナビリティ学連携研究機構（IR3S）などの動き。2007 年度より早稲田大学も「政治的意思決定とジャーナリズム」というテーマで IR3S の協力機関となっています。）。

一方、早稲田大学では依然として箇所間の壁は厚く・高く、21 世紀における学際的な新学問領域を開拓する制度的・心理的な障害となっています。環境研究、環境科学という Issue Oriented な学際・複合領域の発展のためは、とりわけ、深い専門性を踏まえた既存学問（理論・方法の体系）の間における「異種格闘技」が不可欠であると考えます。特に、昨今の 2050 年までに世界の温暖化ガス排出を 50%削減しようという論議は、従来の温暖化研究の枠組みでは、到底、有効な政策体系を提案することは出来ず、環境研究におけるある種の「科学革命」が必要となっていると考えられます。

本研究会が、そうした環境研究の「異種格闘技」の「場」となり、新たな知の創造へと発展し、やがて新たな知識創造が学部や大学院における環境教育や社会貢献にまでつながることを期待しています。是非、多くの早稲田大学の皆様が積極的に本研究会へご参加くださるようお願いいたします。

2. 呼びかけ人

赤尾健一（社会科学総合学術院）、大塚 直（法学学術院）、栗山浩一（政治経済学術院）、弦間正彦（社会科学総合学術院）、近藤康之（政治経済学術院）、原 剛（アジア太平洋研究科）、堀口健治（政治経済学術院）、松岡俊二（アジア太平洋研究科）、吉田徳久（環境・エネルギー研究科）

代表世話人：松岡俊二（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

〒169-0051 新宿区西早稲田 1 丁目 21-1 早大西早稲田ビル 7 階

Tel.03-5286-1471 （内 線 78-6579 ）、 Fax.03-5272-4533 （ 事 務 室 ）

smatsu@waseda.jp